

御嶽海後援会便り NO. 33

令和6年12月21日

令和6年十一月場所 西前頭七枚目 7勝8敗

アクシデントもあり 3場所連続負け越し

今年も残すところわずかとなりましたが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。御嶽海関は、九月場所で二桁の黒星となり、番付を七枚目に下げ、幕内中盤戦での取組となりました。初日、狼雅関を両差しから寄り切り、今場所も白星発進しました（今年全ての場所で初日白星）。二日目、豪ノ山関に敗れましたが、三日目は、錦木関を横から崩して寄り切りました。四日目、翠富士関に粘りの相撲で勝ち、五日目、遠藤関との25度目の対戦も一方的な相撲で制し、序盤を4勝1敗で終えました。六日目、先場所敗れている琴勝峰関に土俵際まで攻め込まれましたが、逆転の突き落としをねらいました。相手が先に落ちて軍配をもらったものの、土俵下に転落した際、左の肩と腰を強打し、土俵には戻れず、病院へ行く事態となりました。七日目、左臀部に大きなテーピングを施し土俵に戻ったものの1敗同士の隆の勝関に敗れました。中日、通算1300回出場の高安関、九日目、一山本関を土俵際まで攻めたものの押し切れず3連敗となりました。十日目、7連勝で勝ち越しをかけている宝富士関との対戦が組まれましたが、相手得意の左差しを封じ、腰の前傾を保ち、頭を付け、重心の浮いたところを前に出、負傷後に初めて白星をあげました。

十一日目、玉鷲関の攻めに屈し、十二日目も明生関に敗れました。十三日目、湘南乃海関ののど輪を下からあてがい、相手の重心を浮かせて押し出し、勝ち越しまであと1番としました。十四日目、このところ連敗をしている翔猿関に今場所も敗れ、勝ち越しを千秋楽にかけることになりました。千秋楽は、先場所勝っている熱海富士関との共に勝ち越しをかけた一番となりましたが、今場所は熱海富士関が制し、負け越しが決まり、7勝8敗で場所を終えました。

優勝は、千秋楽で1敗同士の豊昇龍関との大関対決を制した琴桜関で、悲願の初優勝を果たしました。今回も場所を振り返り、紙面とします。

西前頭七枚目としての十一月場所

御嶽海関



場所前 場所前順調に稽古ができている。場所が楽しみです。
場所を終えて（今年は勝ち越しが2場所）ため息しか出ないね。
北の富士さんの逝去について 後輩として気にかけてもらった。テレビ解説や新聞コラムを通して、応援してもらった実感がある。（逝去は）寂しいけれど、天国でも解説しながら見守ってほしい。これから白星を重ねていくつもりでいる。

場所	勝敗	取組	決まり手	コメント（各報道・情報機関からの要約）
初日	○前	八狼雅	（寄り切り）	「いつも初日はしっかりと白星を取れているので、この後の相撲が大事。自分の相撲が取れなくても我慢して、白星につなげていくことが大事。」
二日目	●前	八豪ノ山	（寄り切り）	「上半身だけの立ち合いをしている。もっと下半身をどっしりさせないと駄目だ。」
三日目	○前	六錦木	（寄り切り）	「内容より白星をあげたことが一番いい。体はしっかり動いる。悪くはないと思う。」
四日目	○前	九翠富士	（極め出し）	「前に出ようということだけを考えていた。相手の得意な形にさせることも一つの手。それがうまくはまったかな。もっと厳しい立ち合いができれば最高。集中してやっていきたい。」
五日目	○前	七遠藤	（押し出し）	「自分の良さを使えているのがいい。中盤以降も出していききたい。」
六日目	○前	五琴勝峰	（突き落とし）	「せっかく勝てたのにもったいないが、無理をさせても仕方

がない。痛みは本人しか分からないので、今は何とも言えない。」(※出羽海親方のコメント。突き落とし後、土俵下に転落、その後、勝ち名乗りを受けられず、病院へ)

七 日目 ● 前 六 隆 の 勝 (寄り切り) 「大丈夫。休場でできないのがお相撲さんだから。最後の仕切りは集中できていた。立ち合いもまっすぐ当たれたし、変化は全く考えていなかった。出るからには最善を尽くす。」

中 日 ● 前 九 高 安 (寄り切り) 「状態が悪すぎる。気持ちが盛り上がらなかった。場所も折り返したし、今が踏ん張りどころかな。万全でなくても出るのが当たり前。応援してくれているファンに姿を見せることが重要。」

九 日目 ● 前 十 一 山 本 (寄り切り) 「だいぶ相撲が取れるようになってきた。仕事は休めないし、休んだ分だけ番付が下がる。」

十 日目 ○ 前 十 宝 富 士 (押し出し) 「我慢して、引かずに取れた。攻めるも守も怖さはある。回復はしている。前に出れば痛みも半減します。」

十一日目 ● 前十一 玉 鷲 (押し出し) 「相手が上手でした。下半身を使って攻め返すのは、まだ無理。」

十二日目 ● 前十一 明 生 (寄り切り) 「踏み込めなかった。ブレーキをかけているつもりはないが、足を出すのが遅い。」

十三日目 ○ 前十三 湘南乃海 (押し出し) 「良いイメージで取れた。集中を切らさずにいきます。」

十四日目 ● 前 五 翔 猿 (送り出し) 「けがをした後、全敗してもおかしくないのに今場所は気持ちが続いている。」

千 秋 楽 ● 前 三 熱海富士 (寄り切り) 「今出せる最大限の力は出せたから悔いはない。」

○十一月場所グラフ (千秋楽)

○国技館に木曾のお宝



「両国国技館落成記念品 (樹齢530年木曾檜材衝立)」
歴代横綱と大相撲の年表が記されています

「木曾檜の衝立について」 落成時は正面玄関に、現在は国技館地下1階大広間前のロビーに設置
現国技館の落成(昭和60年)記念として、上松町の実行委員会が贈呈したものです。

先々代の片男波親方と上松町の方が知り合いの縁で、寄贈を春日野理事長に申請をし、「伊勢神宮のご神木で作製された衝立であり、伊勢神宮は奉納相撲をする由緒あるところ」という理由で、申請が承認されたそうです。そして、今、上松町出身の御嶽海関が国技館で活躍しているわけですが、当時の人は、地元力士が活躍することを想像していたのでしょうか。不思議な縁を感じます。国技館への観戦の際は、御嶽海関の応援とともに衝立もご覧いただければと思います。地下大広間は、ちゃんこ会場になっています。

ちなみに、蔵前国技館落成時には、雷電像の寄贈を申し出た団体もありましたが、設置する場所がないとのことで、設置がかなわなかったとのことです。その雷電像は、今、別のところに設置されていますので、次号で紹介します。

先場所、今場所と御嶽海関は、場所中に負傷しました。年齢も重ね、けがのリスクは避けられないと思います。31号で観戦時に土俵に立ち、白星を見られるのは運が必要かもと記しましたが、さらに大相撲人気でチケット入手も困難な状況です。ツアーも抽選になります。ますます運が必要かもしれません。

大相撲に限らず、皆様により運が訪れる新年、新しい1年になればと思います。

※御嶽海後援会では新弟子を希望する方の情報を募集しています！情報をお持ちの方は御嶽海後援会まで！